

公民館報

発行
2025

7/30

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 74

松本の七夕人形

初めて子どもが生まれたとき
健やかな成長を願って贈る風習
その思いは今も昔も同じ

(撮影 2025.6.29 芳川地区)

松本の図書館は今

多様な企画を展開する

松本市中央図書館を訪ねて

館内に入ると

玄関にはレンタルプランツ。多肉植物の小鉢を借りて席の傍らに置き、読書を促す企画です。小さな緑が新鮮で好評です。

隣には除籍本のリサイクルのコーナー。次の人に読み継がれることでしょう。

館内のゆとりを生かし、読書や自習の空間が広がります。学生たちに長年親しまれる図書館の「マイルーム」です。書庫には蔵書の2/3、約40万冊が保管され、子ども団体向けの児童書や障がい者向けの点字図書なども多数あり、出番を待っていました。



館内レンタルプランツ

図書館内でのオトモにいかがでしょうか



発信基地として

司書の栗津原主事は「かつて図書館は無料の貸し本業と言われたこともありましたが、地域の課題の解決こそが現代の図書館です」と語り、さまざまな取り組みを例示しました。

おはなし会 各館で職員やボランティアにより定期的に開催され、幼少時の情操教育として定着しています。



おはなし会 6月25日は23人の親子が参加、楽しみました

トークライブ 市民の有識者を講師に、多分野にわたる公開講座が開催されています。6月は、ホテルのライブ観察を講座の後半に行いました。

レファレンスサービス 図書館の資料を活用し、学びのお手伝いをします。図書館ネットワークなどを通じて広く信頼できる情報源です。

ビジネス支援 蔵書の種類も広げ、若者の起業や就職へのニーズに応じる企画も構想中とのことです。



書庫で出番を待つ蔵書



図書館は寄り添う

松本の図書館は、中央図書館と10の分館に分散して、蔵書は約140万冊あります。

各館は予約・貸出や返却をチームとして連携しあい、身近な声に添えています。

「本離れ」が進むといわれる今日ですが、利用者が減らないという市立図書館には、学びに込める揺るがぬ姿勢がうかがえました。

公民館報まともと全市版が 奨励賞を受賞

令和6年11月に実施された第10回全国公民館報コンクールで、全市版の館報が奨励賞を受賞しました。このコンクールは、全国の公民館報を対象に、企画・表現力・紙面構成・発行頻度などを、公益社団法人全国公民館連合会が審査するものです。全市版は平成26年度に初めて奨励賞を受賞し、今回は2度目です。

近年では令和2年度の鎌田地区と令和4年度の芳川地区が、それぞれ奨励賞の受賞実績があり、松本市各地区版公民館報のレベルの高さを示しています。



奨励賞の盾

※公民館報コンクールは、直近の発行3号分の紙面が審査対象になります。

松本市公民館報
アーカイブは
こちらから



視点
② 若者の挑戦
めざせー！

食品ロス削減

令和4年度に実施した松本市の市民アンケートによると、20代は食品ロスの意味や問題の認知度が低いことが分かっています。この状況を改善するため、令和5年度に松本市役所と松本市内の大学生による「食品ロス削減未来プロジェクト」が発足しました。

一人暮らしでやりくりが難しく食材が余ってしまう経験から、少ない材料で簡単に作れるレシピをまとめた冊子の作成・配布や、料理教室の企画を行ってきました。食品ロス問題に対して、手軽に取り

組める活動を広めています。

簡単レシピを实践



教室の様子
地域交流の機会にもなります

今年1月に松本市食生活改善推進協議会の協力で行われた料理教室には11人が参加し、「丸ごとピーマンバグ・玉ねぎだけのモチモチ焼き・キャベツのコンソメスープ」を作りました。参加者からは「これなら一人暮らしでも料理に挑戦できそう」との声が

聞かれました。実際に作ってみることで、生活に取り入れてもらいやすくなります。

広がる活動の幅

代表の石橋淳光さん（信州大学工学部1年）は、「大学生である私たちの視点からアプローチしたい」と意気込みます。今後は、よりパワーアップしたレシピ冊子の制作や料理教室の実施も計画しています。また、生ごみを分解して堆肥をつくるコンポスターを木材で手作りし、大学内に設置することも考えています。今後の活動に注目です。

活動の詳細
はこちら！



旧町名碑めぐり ①

本町

本町は、天正10（1582）年に小笠原貞慶が深志城を取り戻し、松本城と改めた後、最初に造った町人町です。外堀東側の市辻・泥町の町屋を全て女鳥羽川の南に移しました。善光寺街道に沿った中町・東町との親町3町の一つ。大手橋（千歳橋）から袖留橋（緑橋）までの大きな町です。

江戸時代からは各種の間屋が軒を連ねる荷物の集散地で、商都松本の経済の中心地でした。



おこひる

梅雨に入る頃、道路脇であの花を見かける時期となった。あちこちで咲いており、黄色くてきれいな花だと思ってしまうが、

特定外来生物で、繁殖力がとても強い。あの花とは「オオキンケイギク」である▼花びらの先がギザギザしていて、花の真ん中部分も黄色い事が特徴。鮮やかな黄色で、つかれいだと思ってしまうが、毎年オオキンケイギクの繁殖力の強さにはびっくりしてしまう。河川敷でお花畑のように、沢山咲いている。今年もこの花を見ると、昨年以上に増えてしまったと思う▼オオキンケイギクが咲き出すと、駆除活動を目にする事も多い。生き物の命を奪う事に心を痛めてしまうが、在来種の生態を崩してしまう。必要な作業だと思ふようにしたい▼在来種への被害を防ぎ、そのような悲しい事態を起こす可能性を減らすために、外来生物を持ち出して拡散させる事は防ぐべきである。



● 公民館長

令和7年度 新任公民館職員

第一 降旗 清人
第三 青木 宏元
城東 橋本 眞一
島立 百瀬也寿之
新村 手塚 剛
寿台 百瀬 康弘
入山 百瀬 行敏
里山 手島 学
内田 梅北 幸男
奈川 奥原 広幸

● 公民館主事

中央 小嶋 克巳
中央 横山 宗功
中央 中村 香奈
中央 村井 瑞規
大板 武本健太郎
白板 飯ヶ濱 功
庄内 飯ヶ濱 功
鎌田 田中 瑞恵
松南 大石 健爾
新村 増澤 賢

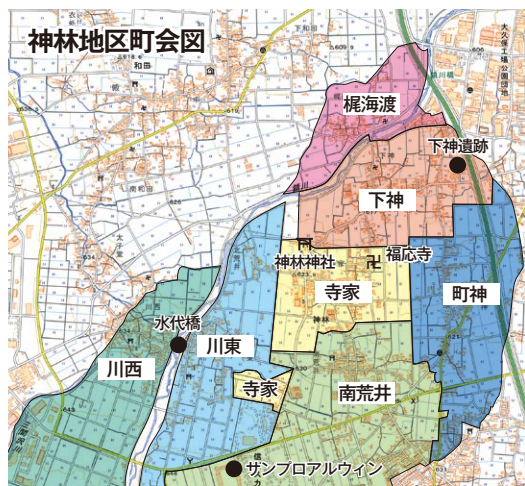
● 館報全市版編集委員

神林 羽田 大樹
四賀 林 祥平
安曇 奥原 裕樹
第一 横沢 恒敏
第三 上條 賢一
東部 降旗 賢一
城北 尾日向智子
安原 大和 靖
白板 北野 町子
庄内 大野田彰孝
鎌田 南雲多榮子

松南 白澤 幸男
島内 川上 弘
中山 小林ちえみ
新村 山口 茂
神林 藤澤 良彦
笹賀 大丸 由美
芳川 村田 正幸
寿台 滝沢 新
松原 江藤 弘子
岡田 増沢 忠芳
入山 大澤 深志
里山 西村 孝也



今井 野尻 和彦
内田 横山 美和
梓川 森 鉄雄
波田 宮澤 典子
大学生 大畑 彩葉
大学生 米田 美優
大学生 蓮本あやめ
（令和7年7月30日現在）



出典：国土地理院（地理院地図を加工して作成）

鎌倉時代は神林

下神遺跡の発掘調査により、平安時代に「草茂庄」と言う荘園がありました。

穂屋は諏訪神社の御射山祭りに関係のある言葉で、神事の仮屋の屋根をススキの穂で造り、それを穂屋と呼んでいました。

穂屋郷という言い伝え

明治7（1874）年に上神林村・下神林村・水代村・梶海渡村の4ヶ村が合併し神林村が誕生しています。また、神林の地名は昔からありましたが、室町時代までは「穂屋郷」とも言われていました。

信州まつもと空港の北側に位置し、歴史と自然とスポーツ施設が調和した魅力的な地域

再発見!!

まつもと地名がたり

「穂屋郷」とも言われていた

神林地区

12

神林の由来と歴史

神林神社の二柱が諏訪明神で、往年のつながりが強く、「穂屋」とは神聖な場所を意味しているため、穂屋郷という地名が伝承していました。また、かつての神林には、ススキの生い茂った原野があったためかも知れません。地区内にある福応寺の山号は、神林山と書いて「ほやのさん」と読みます。



昔の地名を残している水代橋

江戸時代の当初は、4ヶ村とも松本藩の領地でしたが、後に上神林村と水代村と下神林村の一部が幕府領となっています。

旧村名と現在の7町会

上神林村は川東・寺家・南荒井・町神の4町会、下神林村は下神町会、水代村は川西町会、梶海渡村は梶海渡町会となっています。

大正時代に作られた「神林の歌」に、七区の契り 温かくとつたわれるように、和を重んじ協調性のある風土を築いています。

松本平の野鳥たち



コサメビタキ（2024年6月松本市内田 写真提供：信州野鳥の会）

スズメよりずっと小さな小鳥。体の大きさの割に目が大きめで、くりっとして可愛らしく人気の高い夏鳥。枝から飛び上がり、空中で飛ぶ虫をくわえてまた元の枝に戻る行動をとることから、フライキャッチャーとも呼ばれる。アルプス公園でも、市街地の公園でも見かけることができる。

まつもと散歩

花火あがって
ヒマワリ咲いて
光る夏の日、元気にしてる？



(撮影：2025.6.21 縄手通り)